

ヨハネによる福音書 2 章 1-11 節 「最初のしるし」

このカナの婚礼の奇跡は、最初のしるしでした。この最初のしるしからキリストがどのような方であるのかを、ご一緒に学びたいと思います。

ガリラヤのカナで婚礼がありました。さて、この結婚式で、ぶどう酒がなくなるトラブルが発生します。ユダヤの結婚式では、ぶどう酒がなくなるということは絶対にあってはならないことでした。なぜなら、それは祝いの象徴、喜びの象徴であったからです。そのぶどう酒がなくなってしまったのです。すると、母マリアはイエスのところに行き、こう言いました。「ぶどう酒がありません」。彼女は、困った時はいつでもイエスさまに相談し、頼っていました。イエスさまが何とかしてくださると信じていたからです。これはとても大切なことです。自分でどうしよう、と考えるのではなく、まずイエスさまのところへ持って行き、そのまま伝えればいいのです。思い煩いがあるなら、それをいっさい神にゆだねなさい、と。

そのマリアの訴えに対して、4 節以下のように答えました。「婦人よ」という呼び方は、当時、敬意をもって女性に呼びかけるときに用いられた言葉でした。また、「あなたはわたしと何の関係もありません」という言葉は、あなたとわたしは何の関係もないということではなく、あなたとわたしの関心は違いますという意味です。マリアの関心はぶどう酒でしたが、イエスさまの関心は、罪の赦しと永遠のいのちにありました。それが「わたしの時はまだ来ていません。」という答えでした。「わたしの時」とは、ご自分が十字架にかかる時のことです。イエスさまは、人々を罪から解放し、罪の赦しと永遠のいのちを与えるためにこの世に来てくださいました。それがイエス様の最大の関心事でした。

しかしイエスさまはマリアの訴えに無関心ではありませんでした。イエスさまがご自身の関心とは違ったことでも、小さな問題であってもちゃんと配慮してくださる方なのです。ですから、こんな小さなことを祈っても無駄だなんて言わないで、どんな小さなことでも、イエスさまに祈りましょう。「イエスさま、私をあわれんでください。」と。

そしてイエスさまは指示を出しました。人々は、なんでこんなことをしなければならないのかと思ったことでしょう。でも彼らは、「あの方が言われることは、何でもしてください。」というマリアの言葉通りにしました。すると、花婿がほめられることになりました。私たちは時に「何であんなことを」と思うことがあるかもしれませんが、しかし、イエスさまがおっしゃったとおりにするなら、神の栄光が現されるのです。この水がぶどう酒になったという奇跡は、それだけでめでたし、ということだけではありません。イエスさまは私たちに本当の喜びを与えてくださるということです。このぶどう酒は、人々に喜びを与えるものとなりました。つまり、この奇跡は、人は、一生懸命に努力して律法の行いをして、本当の意味で自分をきよめることはできない。イエスさまの十字架の血によって、私たちの罪は赦され、きよめられ、新しいいのち、永遠のいのちという、最上の喜びを与えてくださるということを示していたのです。

これが最初のしるしでした。それで弟子たちはイエスを信じたのです。彼らは、この奇跡を通して、この方が神の子であるというだけでなく、今までの律法や儀式によっては決して与えられなかった自由と喜びを与えてくださる方であるということを知った、ということです。大切なのは、あなたの人生の中にもイエスさまをお迎えすることです。あなたの心の内側にもイエスさまを迎えてください。そして、イエスさまの御言葉にしたがうなら、あなたも本当の自由と喜びを持つことができるはずですよ。